



温室効果ガス 排出量算定報告書 名古屋グランパス

報告期間: 2025年度 (2025年2月～2026年1月)

2026.08

目次

- 01 排出量概要
ロケーション基準およびマーケット基準
- 02 排出量分析
 - カテゴリー別排出量
 - 施設別排出量
- 03 観客の移動・宿泊(カテゴリーその他)
- 04 排出削減目標設定



01

排出量概要

専門用語: スコープ1、2、3

スコープ 3
その他の間接排出 - 上流

購入した製品・サービス

資本財

燃料とエネルギー

輸送と配送

廃棄物

出張

従業員の通勤

リース資産

スコープ 1
直接排出

事業所

社用車

スコープ 2
間接排出購入・使用した電気、
熱、冷水、蒸気スコープ 3
その他の間接排出 - 下流

販売した製品の廃棄

輸送と配送

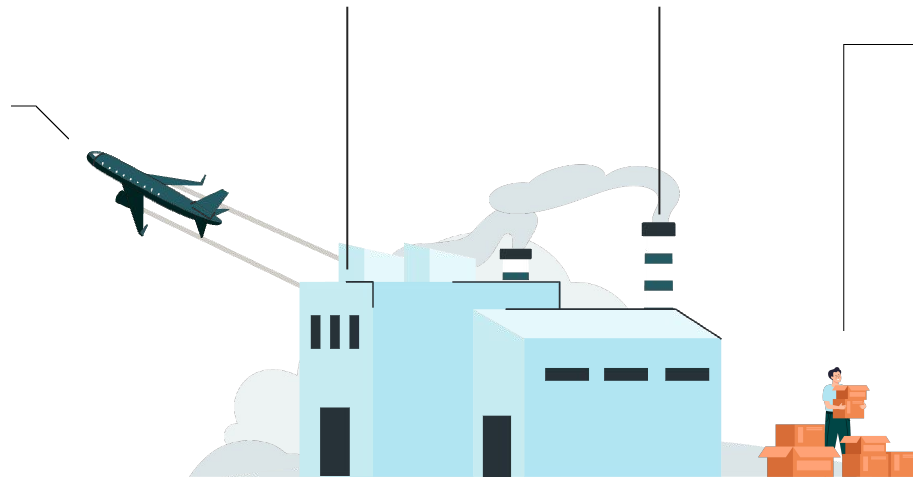
販売した製品の加工

販売した製品の使用

投資

フランチャイズ

リース資産



温室効果ガス排出量報告書2025 - 名古屋グランパス



スコープ／カテゴリー			2025年度実績 (tCO2e)
スコープ1		固定燃焼・移動燃焼・工業プロセス・漏洩	115.21
スコープ2		ロケーション基準	199.09
		マーケット基準	193.44
スコープ3	1	購入した製品・サービス	3799.39
	2	資本財	54.57
	3	燃料・エネルギー関連	57.68
	4	運輸、配送（上流）	対象外
	5	事業から出る廃棄物	85.31
	6	出張	120.30
	7	従業員の通勤	44.04
	8	リース資産（上流）	対象外
	9	輸送、配送（下流）	2.80
	10	販売した製品の加工	対象外
	11	販売した製品の使用	対象外
	12	販売した製品の廃棄	112.69
	13	リース資産（下流）	対象外
	14	フランチャイズ	対象外
	15	投資	対象外
スコープ3合計			4276.79
スコープ1・2・3 合計（スコープ2マーケットベースを使用した算定）			4585.44
ファンの移動 (カテゴリー:その他)			7816.84

2025年度総排出量 - ロケーション基準

2025シーズン（2025年2月～2026年1月）報告対象期間における名古屋グランパスのロケーション基準による総排出量は以下の通りである：

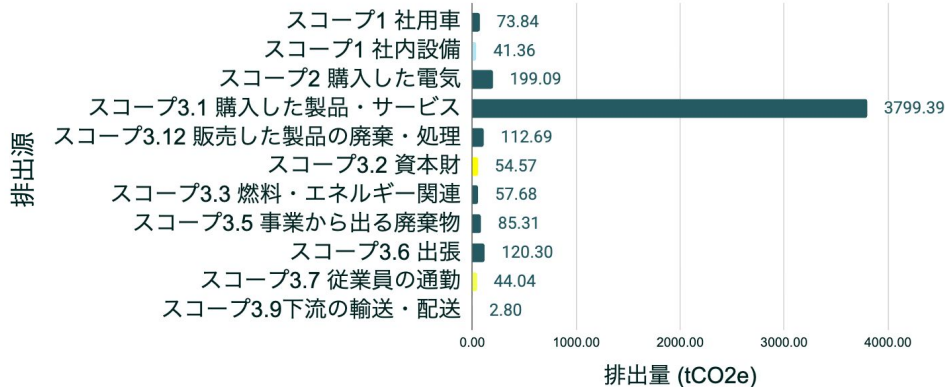
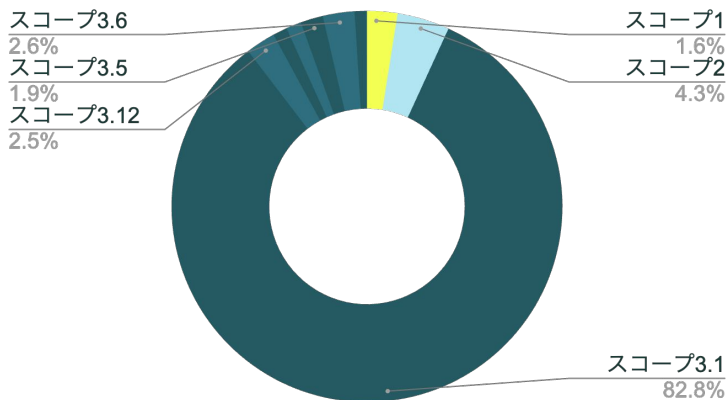
4591.09tCO₂e

→ スコープ1
115.21 tCO₂e

→ スコープ2
199.09 tCO₂e

→ スコープ3
4276.79 tCO₂e

→ ファンの移動（カテゴリーその他）
7,816.84 tCO₂e



2025年度総排出量 - マーケット基準

2025シーズン（2025年2月～2026年1月）における名古屋グランパスのマーケット基準による総排出量は以下の通りである：

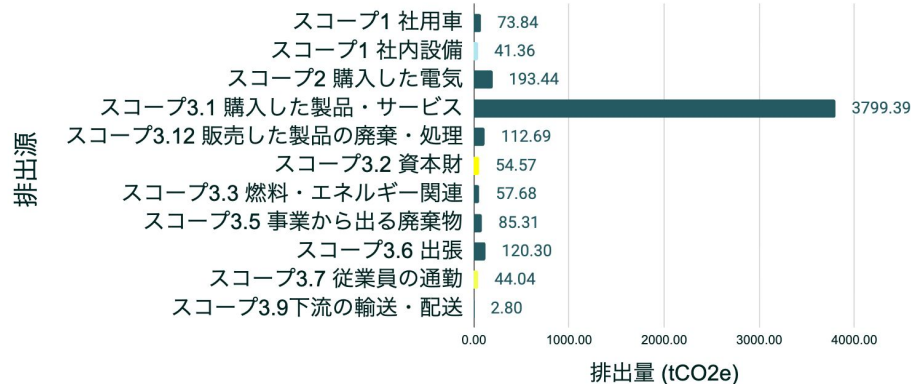
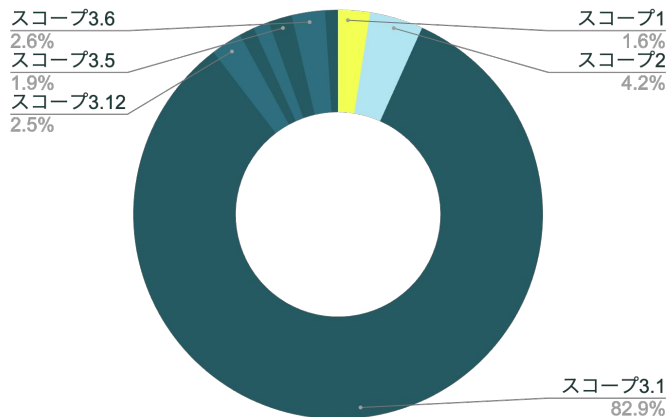
4585.44tCO₂e

→ スコープ1
115.21 tCO₂e

→ スコープ2
193.44 tCO₂e

→ スコープ3
4276.79 tCO₂e

→ ファンの移動（カテゴリーその他）
7,816.84 tCO₂e

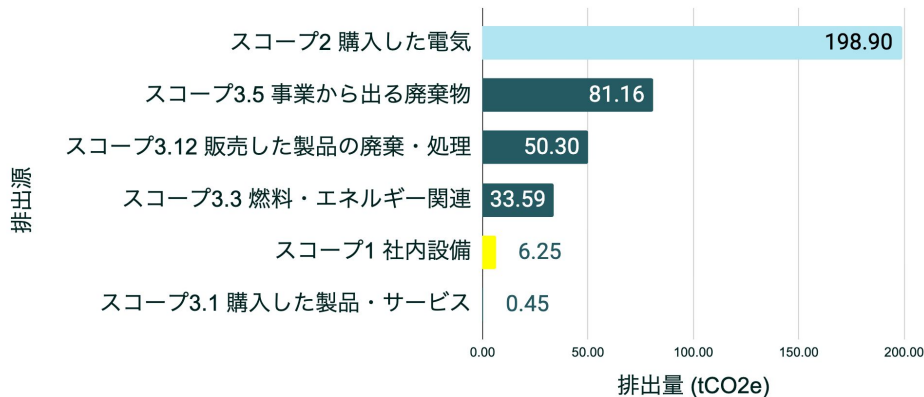
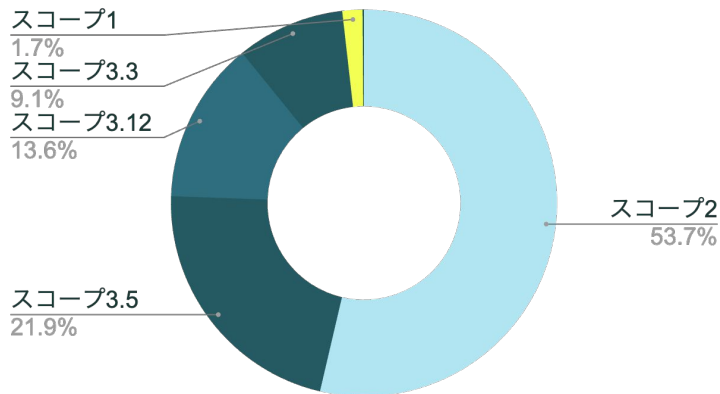


2025年度総排出量 - ロケーション基準

2025シーズン（2025年2月～2026年1月）における豊田スタジアムのロケーション基準による総排出量は以下の通りである：

370.65tCO₂e

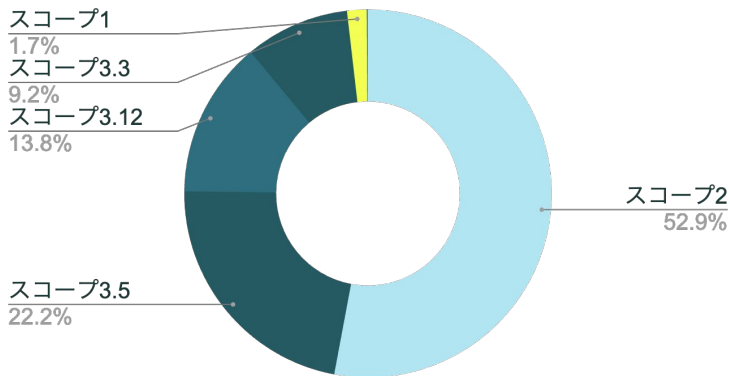
→	スコープ1 6.25 tCO ₂ e
→	スコープ2 198.90 tCO ₂ e
→	スコープ3 165.50 tCO ₂ e
→	ファンの移動（カテゴリーその他） 7,816.84 tCO ₂ e



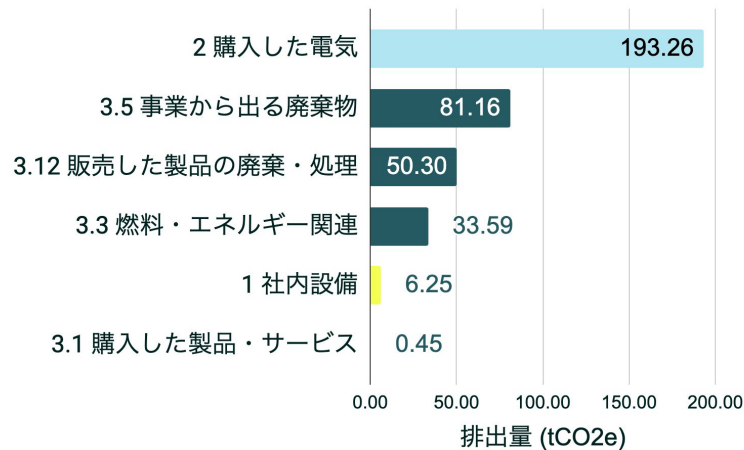
2025年度総排出量 - マーケット基準

2025シーズン（2025年2月～2026年1月）における豊田スタジアムのマーケット基準による総排出量は以下の通りである：

365.01tCO₂e



排出源



→ スコープ1
6.25 tCO₂e

→ スコープ2
193.26 tCO₂e

→ スコープ3
165.50 tCO₂e

→ ファンの移動 (カテゴリーその他)
7,816.84 tCO₂e

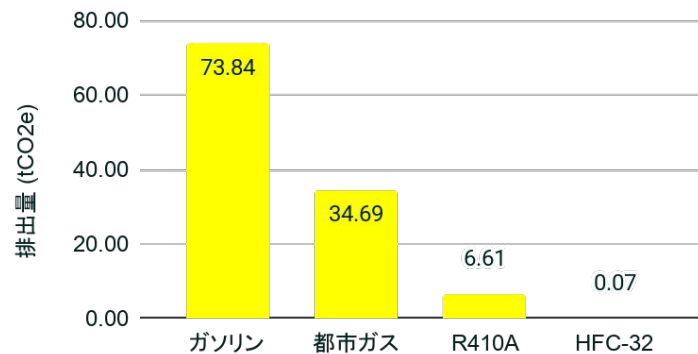
02

カテゴリー別排出量

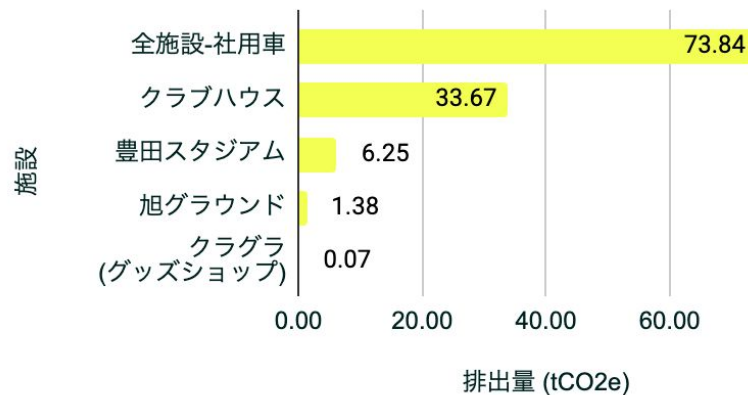
スコープ 1 - 会社施設と社用車

スコープ1は、名古屋グランパスの排出量の2.51%を占める。

スコープ1排出量(種類別)



施設ごとのスコープ1排出量



スコープ 2：電気使用

2025年度の名古屋グランパスにおけるスコープ2
マーケット基準による総排出量は193.44tCO₂e
である。

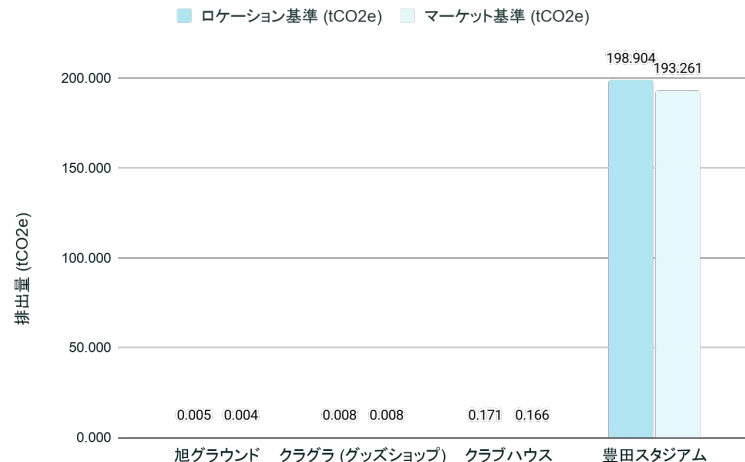
算定対象について

電力消費に伴う排出量の報告には、「ロケーション基準」と「マーケット基準」という2つの算定手法がある。

ロケーション基準の方法は、使用している電力グリッドの平均排出強度に基づいて電力使用からの排出量を計算する。

マーケット基準の方法は、会社が購入する電力からの排出量を計算する。グリーンエネルギータリフの使用と報告をサポートすることを目的としている。

注) tCO₂e：すべての温室効果ガスの排出量を、地球温暖化への影響度を基準にCO₂の重さに換算した単位

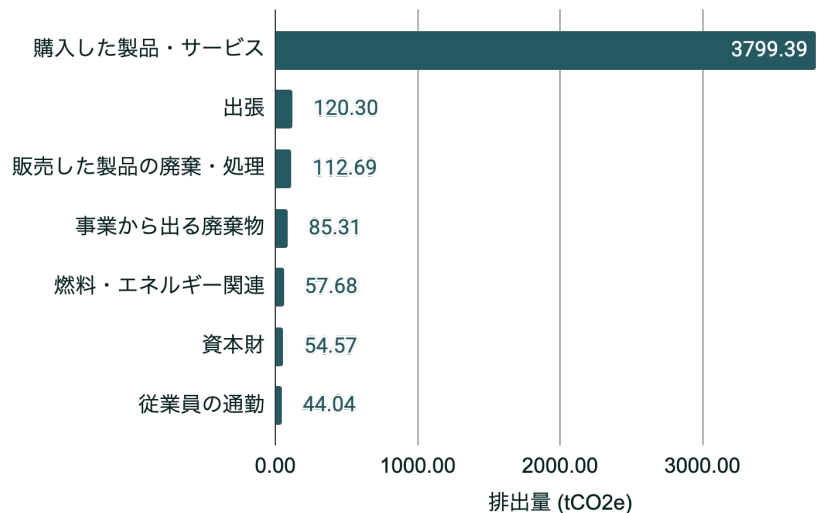


施設	ロケーション基準 (tCO ₂ e)	マーケット基準 (tCO ₂ e)
旭グラウンド	0.00456	0.00443
クラグラ (グッズショップ)	0.00838	0.00814
クラブハウス	0.17115	0.166
豊田スタジアム	198.90391	193.26124
合計	199.08799	193.44010

スコープ 3

2025年度の名古屋グランパスのマーケット基準による総排出量のうち、スコープ 3（バリューチェーン排出量）は93.27%を占める。

カテゴリー	排出量 (tCO2e)	総排出量に占める割合 (%)
購入した製品・サービス	3799.39	82.86%
出張	120.30	2.62%
販売した製品の廃棄・処理	112.69	2.46%
事業から出る廃棄物	85.31	1.86%
燃料・エネルギー関連	57.68	1.26%
資本財	54.57	1.19%
従業員の通勤	44.04	0.96%
下流の輸送・配送	2.80	0.06%



購入した製品・サービス

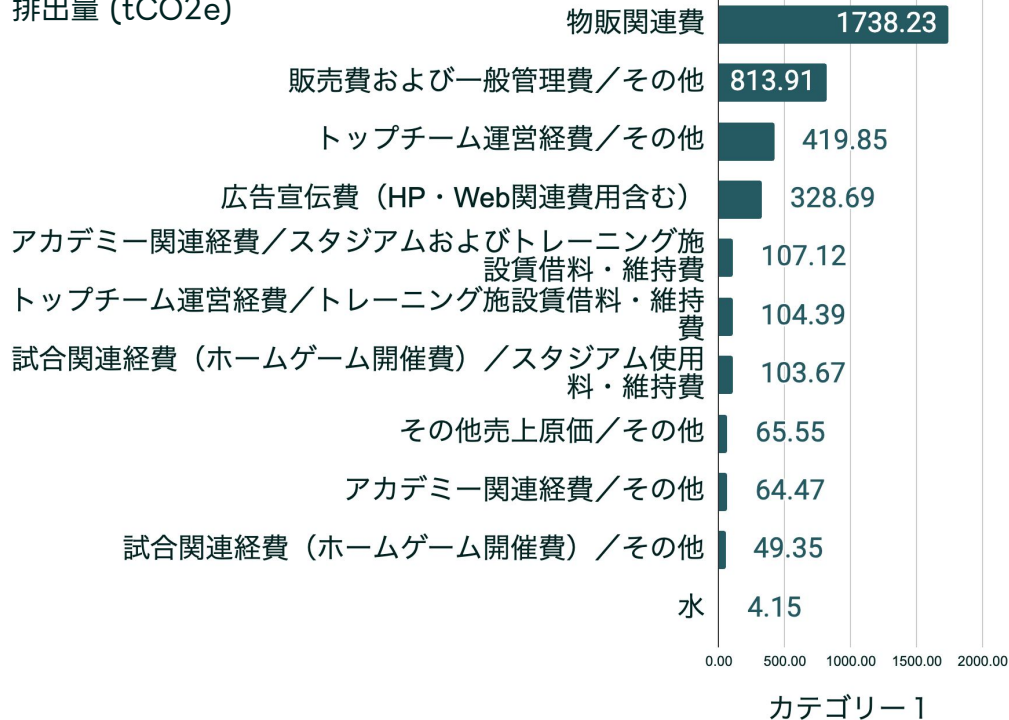
「購入した製品・サービス (PG&S)」は、名古屋グランパスの総排出量の82.86%を占める。

上位2つのカテゴリーである「物販関連費」と「販売費および一般管理費／その他」を合わせると、全排出量の55.7%に相当する。

水は、購入量（重量）のデータと特定の排出係数を用いて算定されている。

その他の内訳については、支出額データと活動タイプ別の平均排出原単位（金額ベース）を用いて算定されている。

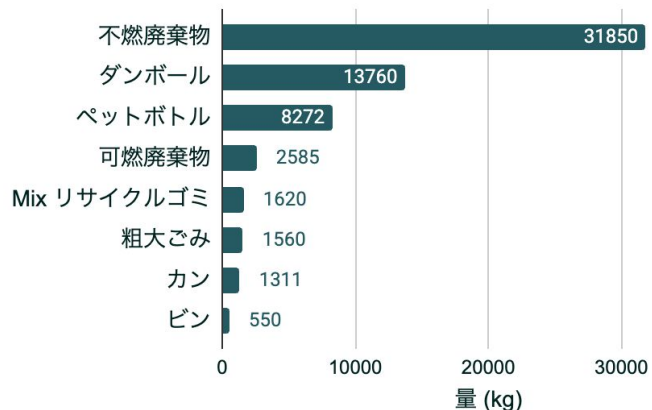
排出量 (tCO₂e)



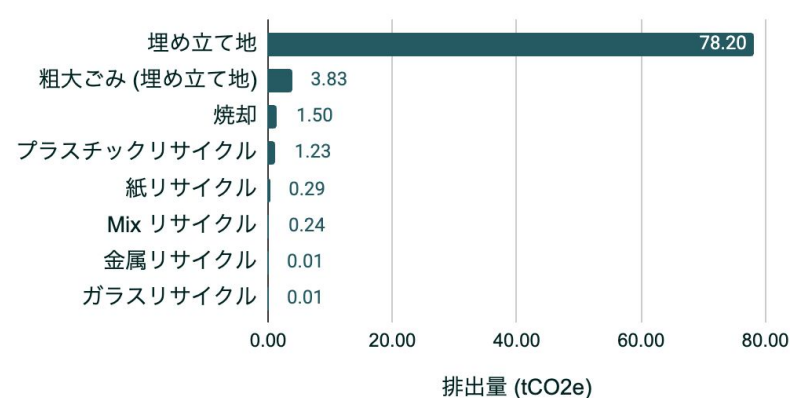
事業から出る廃棄物

廃棄物による排出量は、名古屋グランパスの総排出量の1.86%を占める。

廃棄物の種類別重量



廃棄物の種類別排出量



03

観客の移動・宿泊 (カテゴリーその他)

観客の移動・宿泊（カテゴリーその他）

ファンの移動・宿泊に伴う温室効果ガス排出量は、合計で**7,816.84tCO₂e**と推計される。

これは、クラブ全体の排出量（クラブの事業排出量スコープ1～3（マーケット基準）＋ファン・サポーターの移動・宿泊の合計12,402.28 tCO₂e）のうち約63%に相当する規模である。

観客の種類	ホーム	アウェイ
2025年度の観客総数	586,174	26,829
移動の排出量 tCO ₂ e（往復）	6,323.83	647.90
宿泊の排出量 tCO ₂ e	0	845.11
小計の排出量 tCO ₂ e	6,323.83	1,493.01
合計の排出量 tCO ₂ e	7,816.84	
1人あたりkgCO ₂ e排出量	12.75	

前提条件および算定方法

- 本算定は、2023年度観戦者アンケートの結果に基づいている。当該アンケートでは公共交通機関35%・自家用車61%（計96%）にとどまり、残る4%については来場手段がアンケート結果から明確に判別できなかったため、本算定ではこの4%を公共交通機関とみなし、公共交通機関39%・自家用車61%として分類した。
- アウェイチームの観戦者については、全員が対戦相手チームの本拠地都市から豊田スタジアム（名古屋）まで公共交通機関（鉄道、または鉄道と航空機の組み合わせ）を利用したものと仮定した。
- ホーム観戦者については、名古屋駅から豊田市駅までの区間を、自家用車または鉄道で移動したものと仮定した。
- 移動に伴う排出量は、すべて往復移動として算定している。
- アウェイ観戦者は1泊の宿泊を伴うものと仮定した。
- 排出係数については、すべて環境省の公表値を使用している。

04

排出削減目標設定

2026年以降の削減目標：

名古屋グランパスは、今回の算定結果を踏まえ、以下の削減目標を掲げます。

- 2035年までに、スコープ1・2の温室効果ガス排出量を2025年度比68%削減
- 2050年までに、スコープ1~3の排出量ネットゼロを目指す
- ファン・サポーターの移動に伴うGHG排出量は、上記目標の対象外としていますが、引き続き実態の把握と削減に向けた検討を進めます。

この目標の設定にあたっては、クラブとともに「グランパス カーボンニュートラルアクション with TOYOTA」に取り組むトヨタ自動車に掲げるネットゼロ目標の考え方を参考にしています。トヨタ自動車の基準をもとに名古屋グランパス独自の事業実態を踏まえて設定した目標となります。

また、目標設定にあたっては、GHGプロトコルの報告フレームワークに則った算定を行うとともに、今シーズンからJリーグが参画する「Sport Positive League」の評価指標や「SBTi」基準・枠組み（企業が設定すべき温室効果ガス削減目標の国際基準）との整合性も踏まえながら検討を進めています。今後も、これらの枠組みを参照しながら、信頼性のある目標設定と情報開示に取り組んでまいります。

目標に基づく排出削減シナリオ

